

QSK

2010年
10月23日

GENKI



発行：九州障害者定期刊行物協会 (QSK)

〒812-0069 福岡県福岡市東区郷口町7-7

編集：特定非営利活動法人

定価100円

北九州自立生活センター

〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借2丁目5-19

自立生活センター(事務局) / (093)541-5000

小規模作業所GENKI / (093)541-0130

介助事業所GENKI / (093)541-0137

共通FAX / (093)541-5770

E-mail: cil-kita@hyper.ocn.ne.jp



本号の主な内容

- ◎目 玉 わっしょい百万夏祭りについて
- ◎事 業 メインストリート・プログラムについて
- ◎エッセイ 障害者就労支援について
TOTO夏祭りについて、原爆式典に想う
- ◎そ の 他 介助事業所GENKI、
障害者就労支援について

継続・新規センター
会員を募集します

わっしょい百万夏祭りについて



今年もみんなで がんばりました！

小川 美也子

去る8月7・8日にかけて、第23回わっしょい百万夏まつりが行なわれました。わっしょい百万夏まつりでは、障害のある人も無い人も共に参加して楽しめる場として市役所近くのふれあい広場にて昨年同様、今年も設けられました。当センターも昨年にひきつづき、くじ付きの冷たい飲料水や昨年好評だったしおりに加えて、今年は新商品を揃えて参加しました。準備には、スタッフはもちろんの事、ヘルパーさんやボランティアの皆さんのご協力で作品の材料を提供していただいたり飲料水を冷やす為の氷なども作ってもらいました。

今年は、昨年同様の光るファンシーグッズに加えて、秋に備えておしゃれなスカーフも数多く揃えました。当センターの自主作品としては、私のアイデアで、作製したアイビー・テーブルヤシ・クッカバラなど、色々な植物をアクリルガラスに入れて、水やりの回数を徐々に減らせる、ブルーやピンクのカラージュエルポリマーを使い、可愛らしくアレンジした観葉植物です。

季節柄、金魚や風鈴、朝顔などフェルトを使って、季節感溢れる種類のコースターを作りました。ガラス置きはもちろんのこと、ピアスなどのアクセサリや、ちょっとしたマニキュア置きとしても使えるようにミサンガで工夫し、観葉植物とセットで、2WAY「グリーン・グラス」と、命名して販売しました。看板も昨年同様手作りです。

私も記念にと、ミリオンバンパーを部屋のチェストの上に飾っています。2ヶ月近く過ぎましたが、今でも元気に育っています。



話は変わりますが、当センターは私を含め車イス利用者が多くいます。それで店の場所を車イスが移動しやすい角地を頂き、助かりましたが、祭りであまりに人が混雑している為に身動きがとれず、ある程度の工夫をしましたが、私たちには厳しく大変でした。

販売では、一般のボランティアの方に

わっしょい百万夏祭りについて

加え、北九州保育専門学校の11人の学生さんも頑張ってくださいました。二日間でファンシーグッズは完売、私が提案した、手作りのグリーングラスもほぼ完売し、ほっと胸をなで下ろしました。車イスの利用者は、祭りでの人ごみなどでは、花火も近くで観ることは困難ですが、なにより良かった事は、啓発にも参加できたことです。

最後に今年の夏の祭りも皆で力を合わせて頑張りました。

出店風景



わっしょい百万夏祭りを終えて

宇山 大輔

私は今年初めて、祭りの仕事に参加しました。ちゃんとできるのかとても不安でした。また、今年は暑かったので熱中症で倒れる人がいるのではないかと心配しましたが、幸い倒れる人がなくてよかったです。

私は、昼からの仕事だったので、午後1時に馬借の事務所からふれあい広場までいきました。普段なら20分でいけるところでしたが、人が多くて1時間もかかり、車椅子の動くスペースがなくなってきて動けなくなりました。トイレに行く時も人込みで全く前に進めなくて、とても困りました。もう一つ困ったことは、トイレに一番近い入口のスロープが通れなかったことです。人がスロープに座っていて通れませんでした。結局遠回りをして正面玄関から入りましたが、もう少し配慮してほしいです。

私の仕事はお客さんを呼び込む事で、ジュースを売るために一生懸命声を出しました。最初、お客さんは、あまり来てくれませんでした。でも、夕方になり、人込みがさらに多くなると、ジュースの売れ行きがよくなり、私の声もだんだん大きくなりました。そして、花火が始まるころには、ジュースがほとんど売り切れました。それから、午後8時半になると3000発の花火があがりました。今まで私は花火を会場で見ることがなかったので、生で見る花火はとてもきれいでした。お客さんが笑顔で帰っていったので、私はとても嬉しかったです。



就労支援について

障害者の 就労支援に想う

林 芳江

皆さんはハローワークの窓口を訪ねたことがありますか。仕事を探している人あるいは、働きたい人を探すために、誰にでも開かれた窓口であるはずですが、私にとって、ここを訪ねるのはどうしても足が重くなってしまいます。何故なら、求職の立場であっても、求人者の立場であっても、無言のプレッシャーのようなものを感じてしまいます。それは働こうとする者または事業を行なおうとするなら、最低でも「移動」と「スムーズな会話」と「筆記」の能力が三拍子そろってからにしてください、という感覚が社会の中で既成概念の様にあるのを肌で感じてきたからだと思います。

自立生活センターの『自立のサポート』の中には、あまり表立ってはないかも知れませんが「就労」ということも大切に、自立生活センター自体が、ピア・カウンセラーという職域を設け、障害者と健常者が対等に働くことができる場を模索しています。現代は一段と能力性や効率性を求められていますが、それを追求していくだけでは、恐らく社会は居心地よくも、豊かにもならないでしょう。色々な人が一緒に働くことで、ロスが生じて同時に多様性と創意工夫等など生まれてきます。実は頭でこう考えられても、事業に採算性が切り離せない限り、本当に難しいテーマだと実感しています。前書きが長くなってしまいましたが、去る10月9日に障団連の研修会で「障害者の就労支援」をテーマに上げられましたので、その内容も織り込みながら書きます。

まず、障害者の就労のパターンには、『一般就労』と福祉的就労があります。よく正規雇用とパート等のパターンもありますが、就業時間数や就業条件が分けられるのではなく、端的に言うところ、雇用契約を前提に最低賃金を保障されるのが一般就労です。一方福祉的就労は、職業訓練や必要に応じた生活面の支援も含まれ、障害者自立支援法の体系化に置かれ「就労移行支援」「就労継続支援」など、利用者という立場に置かれ、働きに行くのに負担金を払うことが裁判までなったニュースもあったわけです。

今回の研修では前半で障害福祉課より、担当係長お二人に障害者の就労支援に関する全体的な法律や制度について話してもらいましたが、どちらかといえ

就労支援について

ばまず登場するのが『障害者の雇用の促進等に関する法律』の話です。昭和35年に定められ、直近では平成21年7月に一部改正されました。この法律によると障害者雇用率制度で事業主は従業員のうち民間企業は1.8%、地方公共団体は2.1%、教育委員会は2.0%の障害者の雇用に義務づけることになっています。しかし、義務が未達成でも納付金を払いクリアできる仕組みになっているため、平成21年の雇用率達成企業の割合が全国45.5%、福岡県50.7%に留まっているそうです。また納付金を納める企業・事業所の規模もこれまでは、常用雇用労働者301人以上が対象であったために、先の改正で、段階的に対象を201人、101人以上の事業主に広げるなどし、各地元の中小企業でも障害者雇用が進んでいくよう講じられている最中です。

次に産業別の障害者の就職率などが説明され、その後、個々の障害者の採用に直接関係している『特定求職者雇用開発助成金』の拡充の説明や、『障害者試行雇用事業：「トライアル雇用」による障害者のきっかけづくり』が紹介されました。このトライアル雇用とは、障害者に関する知識や雇用経験がないことから、障害者雇用をためらっている事業所に、障害者を先ず三ヶ月間有期雇用契約を結び、試用雇用（トライアル雇用）の形で受け入れることにより、事業主に障害者雇用のきっかけをつくり、一般雇用への移行を促進することを目指すものです。

この他にも一般就労を支援する機関が一通り紹介され、①職業紹介：ハローワーク・民間職業紹介所、②職業能力の評価・ジョブコーチの派遣：福岡障害者職業センター北九州支所、③職業訓練：福岡県障害者職業能力開発校、④その他：労働基準監督署・福岡県北九州労働者支援事務所があります。

さらにこの前には出てきませんが、研修の後半は北九州障害者しごとサポートセンターの所長から、センターの取り組みのお話を頂きました。内容はここでは書き尽くせませんが、働きたい障害者の相談を受けるために、ウエルとぼたの二階に平日8：30分～19：30分まで開かれた窓口です。ぜひ利用してみてください。今回の研修は全体として密度の濃いもので、さらに分野わけして研修ができると良いかもしれません。

働くことを社会の義務とみなしてしまうと障害者には厳しいものではありませんが、仕事として役割りや責任を持つということが、社会の一員の実感にもつながる大切な要素です。就労というテーマも置き去りにすることなく、追いかけて行きたいと考えています。



TOTO夏祭りについて

小規模連に協力して

大石 厚生

去る8月20日、TOTO本社グラウンドにて夏祭りがありました。そこに*1小規模連の出店ブースがあり、当センターから私と池永さんがお手伝いとして参加し、私達のほかにも数名が参加していました。当センターでは作業所が製作したボンボンマスコットを出品しましたが、その他にも小規模連に加盟している作業所が作っているキャラメルやクッキー、アクセサリーや小物などのいろいろな品物を販売しました。たくさんのお客さんが来られてボンボンマスコットを（かわいいと言って）購入していく人もいました。普段、他の作業所の作品を販売することがないので、値段を間違えないようにすることに、すこし戸惑いました。また、ステージ上では地域の保育園の園児達のお遊戯などや新入社員さんの出し物があり、ものまね芸人の来場もあって、たくさんの人たちでにぎわっていました。ステージの前にはブルーシートで観客席が設けられており、ステージ終了まで観客は減ることなくにぎやかな雰囲気でした。



この祭りは地域に根付いたお祭りと思いましたが、その通りだと思いました。

途中、林さんと藤下さんにも応援に駆け付けて頂き販売に熱中していると、

ボンボンマスコット



だんだん暗くなるにしたがってお祭りもクライマックスを迎えました。それは、花火と音楽とのコラボレーションで、大音響とレーザー光線が入り乱れてすごい迫力でした。一瞬、暑さも忘れ見入ってしまいました。最終的に販売商品もほとんど売れてしまい、短い時間でしたが貴重な体験をすることができました。



*1=北九州小規模作業所連絡協議会

エッセイ 障害者と平和

原爆犠牲者
平和祈念式典に想う

佐藤 カヨ子

小倉北区の勝山公園には長崎の鐘と原爆慰霊碑があり、8月9日の被爆の日には長崎と同じように慰霊式典が行われます。直接の被爆地でもないのに何故でしょうか？

この疑問もあって城南中学夜間学級（夜間学級については次号で報告したいと思います）の仲間と共に、教室で折った千羽鶴の献納も兼ねて式典に参加しました。市原爆被害者の会の方々を中心に約200名の参列がありこの日は2月に行われた非核平和都市宣言の記念碑除幕式もあり、核の問題や平和について考えさせられる日となりました。

さて、初めの疑問ですが、長崎に落とされた原爆は、当初小倉が目標だったのです。当時小倉には造兵廠ぞうへいしょうがあり、原爆投下の第一目標とされていたようです。それが前日の八幡大空襲の煙で視界が悪く、長崎に変更されたとのことです。八幡は製鉄所が狙われたのですが、街全体が焼け野原となりました。多くの市民が犠牲になりました。ですから、原爆は私たち北九州市民にとって決して他人事ではないのです。



▲平和都市宣言碑

酷暑の中、無心に献花し、小さな手を合わせる幼稚園児の姿が清々しく感じられました。今はその意味は判らなくても、子どもたちの姿そのものが、平和の尊さを語り継ぐ意義であると言えるでしょう。戦争ほど人間を不幸に巻き込むものはなく、平和や福祉社会と対極にあるものです。戦争中、障害を持つ人たちは戦力にならない非国民とされて、辛い思いをしたそうです。私たちそれぞれが考え続けていかなければならないと思います。

メインストリート・プログラム

スポーツの秋、 皆さん満足できたかなあ!?

永松 啓子



▲ポッチャー風景

初秋といっても、まだまだ暑さの残る9月19日(日曜日)に“第2回メインストリート・プログラム”を行ないました。

行なうにあたり、担当としては2ヶ月前に”案”を作りJRに乗り、下曾根駅から歩いて2～3分の場所にある「ザ・モール小倉の3階、北九州ボウル」でボウリングを楽しんでもらおうと思っていましたが、インターネットを見たスタッフに「ポッチャ」というスポーツがあることを教えても

らい、「パラリンピックの正式種目」にもなっていると聞いて、スタッフと話し合いをして、急遽変更。今回は新しいスポーツに”チャレンジ”をしてみようとの事で『スポーツの秋だ!みんなで汗をかきながら「ポッチャ」をやろう!!』という企画を立てて、そこで早速パソコンを開きインターネットで調べて見ました。ポッチャは「ヨーロッパ」生まれの、室内競技で白いジャックボール(目標球1球)とカラーボール(赤6球、青6球)を使用し、手など不自由な方には、ランプスという補助具を使って行なうスポーツだと言うことが分かりましたが、どのようにすれば良いのかルールの説明などを教えてもらいたくて、障害者スポーツセンターに電話を掛けて聞いてみたところ心良く「ポッチャ競技に必要な道具一式」を貸しだしてくださり、指導員の方2名が「生涯学習総合センター」に来てくださるようになり実施することができました。

当日は、他団体の行事と重なり参加者も少なく、3班に分かれて行動してもらいようにし、集合場所の小倉駅マルチビジョン前には、障害のある人・ない人など合わせて27名の人が集まってくれました。今回行なう「ポッチャ」の時間帯は、10時30分から12時30分までとなっており、集まった班の人から生涯学習総合センターに行ってもらう行程で、私たちの班は小倉駅バスステーションから周遊100円バスに乗り松本清張記念館前で降りました。後の2班は電車で小倉駅から乗り西小倉駅で降り1班は予定通りに「生涯学習総合

メインストリート・プログラム

センター」に到着したそうです。もう一つの班は私たちと同じように、少し遅れて生涯学習総合センターに着きました。そこで、障害者スポーツセンターの指導員の方に、ポッチャ競技の説明をしてもらい、初めてポッチャというスポーツを知ってボールを投げる人が大半でしたが、指導してくださった方の教え方が良かったのか！皆さん、ルール通りに行って楽しい時間を過ごせ予定の時刻



▲ 試合体験

に終わりました。その後は、それぞれの班で話し合い、リバーウォークで昼食をとり、井筒屋でウインドウショッピングなどをする班もあったようです。私たちの班では、リバーウォークで昼食を取ることにになり、男性群は地下のフードコートに、女性群は4階で食べようと、言うことで、待ち合わせ時間や集合場所を1階の噴水近くのエレベーター前に決めましたが、4階のレストランはなかなか席が空かず食べ終わるまでに時間がかかり気が付いてみれば待ち合わせ時間を過ぎていて！慌てて待ち合わせ場所の1階へ。そこから、銀天街の中を歩いて小倉駅マルチビジョン前に帰り着きました。今回は、天候に左右されることも無く無事に終わり、参加してくださった方々に、本当に感謝しております。ありがとうございました。

北九州には皆さんも、良くご存知の「ふうせんバレーボール」という、(当センターの初代代表が考案し、作り上げた)障害のある方と障害のない方と共に楽しむ全国的に有名なスポーツがあります。また違う目線で皆さんも一度、ポッチャという障害者スポーツにチャレンジしてを見ませんか？

次回、第3回メインストリート・プログラムもご参加の程、よろしくお願いいたします。



▲ 昼ごはん風景

ものづくりのエッセイ

ハタ織の練習 講師を迎えて



小川 美也子



当センターでは、現在講師を迎えてハタ織を習っています。

講師は大村典子さん、明るくて元気なお姉さんです。週二回ほど来られています。編み物には大きく分けて、「平織り」「綾織り」「朱子織り」の三種類があります。卓上機で織れるのは平織りです。私は、一本の糸を絡ませて編んでいく手編みは、手に余計な力が入ってしまいどうしても苦手です。卓上機を

▲作業風景

使う編み物は、構造が大きく違って、沢山の縦糸の間に横糸をくぐらせるだけで、いろいろな柄の織物が織れる仕組みです。それなら私でも出来るかな？と思い習ってみることにしました。始めは、並太糸の赤と黒の二色の糸を使って市松模様のテーブルセンターを織る練習から始まり、卓上機に糸をセットするまでの縦糸を張る作業がすごく大変です。

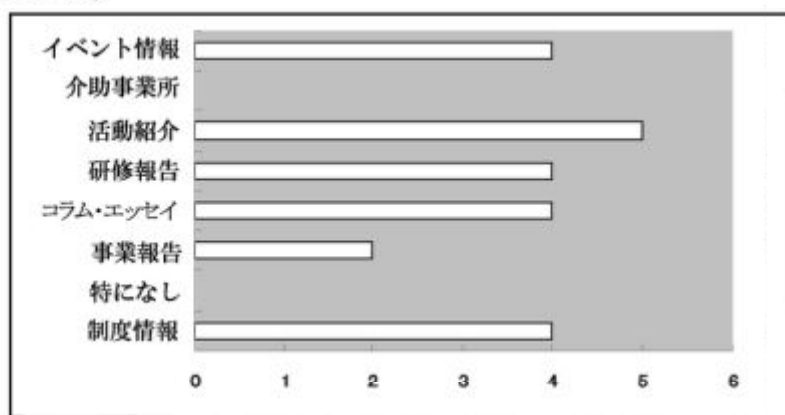
まず始めに幅と糸の長さを決め、そして小さな穴に一本一本糸を通していきます。縦糸が張ればそれから横糸をくぐらせながら織っていきます。私の中では、トントンと織るイメージでしたが、スーと手前にゆっくりと引き寄せます。そして、いろいろな色の糸を、組み合わせ、そのことによって、色々な柄が出来上がっていきます。

しばらくはハタ織の練習が続くとありますが、頑張ります。



アンケートから見た 会報GENKI

会報GENKI No. 66のアンケートにご協力頂き、ありがとうございました。回収率が低かったことはやや残念ですが、少ない中でも貴重なご意見を頂いたことを感謝致します。今回のアンケートは、ご購入されているみなさまに、どのような記事に関心があるかなどを中心に、購読者の年齢層や紙面の構成や読みやすさ、役に立つ記事など、7項目に渡り設問しご意見を集めさせて頂きました。



その中で、「どんな記事内容が役に立つか」とい設問の解答をグラフにしてご紹介します。活動紹介の記事が一つ抜き出てはいますが、イベント紹介、研修報告など幾つかの内容

は横並びです。ただ、どういわけか介助事業所GENKIの記事には票が集まっていませんでした。ヘルパー・スタッフの紹介や健康メニューのレシピ等をのせて、担当としては力を入れているのですが、もしかしたら、もう一工夫という声を頂いたのかも知れません。

今後の課題として、このアンケートの結果を参考にしながら、少しでも多くの人たちに読んで頂き、お役に立てるようになるために、更にアンテナを張り、情報をキャッチして、皆様にお伝えしたいと考えています。今まで以上に読みやすい、またわかりやすい紙面づくりをしたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。



介助事業所GENKI

介助事業所GENKI ～ 新しい顔 ～

今年の夏は、異常な暑さでしたね。
そんな夏も過ぎ、紅葉の季節になりました☆
皆さんは、もう紅葉を楽しめましたか？
それとも・・・毎日の日々に追われ、景色を
見に行く事を忘れているとか？



綺麗な景色には癒し効果があります！

皆さんも日々の生活から少し抜け出し、紅葉の季節を楽しんで下さい。

(^o^)/

ちょっと話がそれてしまいましたが、ここで『GENKIの新しい顔』と題し新しい仲間を紹介したいと思います！



プロフィール

名 前 : 東 幸 恵
ニックネーム : さっちゃん
趣 味 : 温泉・ドライブ
抱 負 : 毎日ニコニコ笑顔で、
皆さんに元気をプレゼ
ント出来らいいなあ!!

GENKIにはまだまだ
個性豊かなヘルパーがいます。
今後ともGENKIヘルパーを、
よろしくお願い致します！



続きまして、調理師の資格を持つ職員によるレシピ紹介で～す。

秋と言えば … ?



西平 有希

もう秋ですね～！！

秋の魚の代表といえば・・・？ さんまと鮭ですよ(^_^)

皆さんは、今年さんまを食べられましたか？

シンプルに、塩焼きもいいですが

今回は、短時間で簡単に出来る《さんまの梅生姜にんにく煮》を紹介したいと思います！

さんまの梅生姜にんにく煮

材 料

・さんま	4匹
・梅干	小6個
・にんにく	2カケ
・生姜	1カケ
・酒	150cc
・醤油	大さじ1
・味醂	大さじ1



作 り 方

- ①さんまは頭を落として、内蔵をとり、カットして鍋に並べる。
- ②生姜は薄切りにして、にんにくは包丁の歯を平にして叩き潰して2, 3カケに切って鍋に入れる。
- ③調味料も全て鍋に入れ、中火にかけ、煮立ったら弱火にして再び煮る。
完成~~~~！

さんまの梅煮に生姜とにんにくをプラス、より風味豊かに！！

さんまは、たんぱく質や脂質が多く、ビタミンB12、DやDHAも豊富。貧血予防にもなります☆

活 動 報 告

7 月

- 4 日 福津市上西郷小学校人権講演会 講師 佐藤
- 7 日 障害者スポーツセンター検討会
- 14 日 九州リハビリテーション大学校 講師 林
- 18 日 北九州市障害者相談員研修会 (ウェルとばた) 佐藤
- 22 日 九州女子大学 講師 (林)
障団連 人権部会
- 24 日 障団連 (要望書検討会)
林・永松
- 25 日 北九州市障害者水泳大会 佐藤



8 月



- 6 日 8・6 平和集会 佐藤・大石
- 7~8 日 わっしょい百万夏祭り
- 9 日 北九州市原爆犠牲者平和祈念式典 佐藤
- 20 日 小規模作業所連絡協議会のお手伝い
(TOTOまつり) 大石・池永
- 26 日 障団連 常任委員会

9 月

- 16 日 障害者地域生活支援研究会 林
- 19 日 第2回、メインストリート・プログラム
- 24 日 障団連、第3回啓発事業実行委員会会議
林・小川・永松
- 29 日 メインストリート・プログラム 反省会



毎月11日に幸せの黄色いレシートキャンペーン

御寄付をいただいた皆様

2010年10月11日現在

[個人] 木村 勝 様 宮永 敏市 様

[団体] イオン戸畑ショッピングセンター

(幸せの黄色いレシートキャンペーン)

募金・寄付金に御協力ありがとうございます

募金や寄付金にご協力いただいています皆様に深くお礼申し上げます。

北九州自立生活センターは、任意団体として活動を始めて、皆様のお力添えをいただきつつ、今やNPO法人として事業に取り組むに至りました。この間何かと駆け足で進めてきたこともあり、未整備のため皆様へ失礼やご迷惑をおかけしていることがございます。深くお詫び申し上げ、ひとつひとつ改善に努めてまいりますので、ご容赦と引き続きのご支援をお願い申し上げます。募金箱の設置につきましても改めてお願いをして参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。また新規でご協力いただける方がありましたら、お手数ですがお知らせいただけるとうれしく思います。一人でも多くの方々に、「共に支えあって生きる」ということにご賛同いただけますよう重ねてお願ひ申し上げます。

編集後記

暦の上では十五夜も過ぎ、あの夏の猛暑はどこにいったんでしょうかと思う間もなく、冬の足音がだんだん聞こえる季節となり、今年の秋は短かそうです。

秋の味覚といえば、秋刀魚です。本紙のレシピも参考にして、秋を味わってください。

これから次第に寒くなりますので、お体にお気をつけてお過ごしください。

大石



会員を募集しています!

賛助会員	正会員	購読会員
年会費 (一口) 5000円 資金面で協力を していただける方	年会費 3000円 積極的に活動に参加 していただける方	年会費 (送料込) 200円 定期的に本誌をご購読 していただける方

センターの活動にご協力いただける方を募集しております。また、会費は私たちの大きな資金源の1つとなっております。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

※会員の方には、この会報「GENKI」を3か月に1度お届けしています。

入会方法は、このページの末をご覧ください。

寄付のお願い

私ども特定非営利活動法人北九州自立生活センターは、障害者が自立するために色々な事業を行っております。その事業を行うため、皆様方に寄付をお願いしております。施設から地域へ出てくる障害者が少しずつ増えています。その人達の支援をするためにも資金が必要となっております。より多くの障害者が地域でありのままの暮らしが出来るように、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ご入会、ご寄付はセンターに御来所いただくか、郵便振替または銀行振込を御利用いただければ幸いです。

■郵便振替の方は

口座番号；01720-1-25526

■銀行振込の方は

福岡銀行	小倉支店	普通	2345474
西日本シティ銀行	室町支店	普通	1465622

◆口座名義人はともに

特定非営利活動法人 北九州自立生活センター

